

進捗状況調査票（令和5年度末時点）

連番	意見聴取年度	ワークショップ の共感数	大項目	参加者の声（要望・意見）	解決策・代替え案など進捗状況
1	R 4	32 + 33	一時預かり保育	直前でも気軽に子どもを預けられるサービスや施設を希望。現在は特に申請面でハードルが高い。空き状況がリアルタイムで確認できて、空いていたら即申し込めるような状態を望む。	一時預かり保育については、お子さんを安全にお預かりするため、事前に申し込みいただいております。 また、利用を希望されるかたも多く、あらかじめ希望日をお聞きし、利用日を調整して、お子さんの年齢や人数により保育士を配置しているため、空きがないのが現状です。
2	R 4	56	育児休業による保育園の退園	下の子が産まれたら保育園を退園なくてはいけないという決まりをやめてほしい。	0～2歳児クラスについては保育需要が高く、待機児童がいるため、保育の必要性の高い人かたが入園できるよう、保護者の育児休業中は退園いただいております。 今後も、既存施設の改修や、小規模保育所の開設等により保育の受入れ枠の拡大を進め、まずは待機児童を解消し、保育の需給バランスを見て、未就園のお子さんを複数保育している家庭の負担軽減との公平性を考慮しつつ、0～2歳児クラスの育児休業中の継続入所等を検討してまいります。
3	R 4	24	保育園・幼稚園・認定こども園の拡充	共働きがしやすいように、幼稚園や保育園を増やしてほしい。また、その要件を緩和してほしい。	令和5年4月から新たに私立幼保連携型認定こども園を2園認可し、開設しました。また令和6年度4月から新たに小規模保育事業を3事業認可し、保育の枠を更に拡大します。今後も既存施設の改修等に伴う子どもの受入枠の増加や、保育の需要に対応できるよう努めてまいります。 また、保育園は、保護者の就労や疾病等の理由により、保育が必要な場合に保護者に代わって保育する施設ですので、要件を満たさないと入園できませんが、幼稚園は、就労等の要件はなくご利用いただけます。
4	R 4	34	保育園の準備物等	手作り制度をやめてほしい。また、おむつのサブスクなど、働く世帯が子育てしやすいように導入を検討してほしい。あと、保育園で使用したおむつは園で廃棄してほしい。	入園にあたり準備いただくものにつきましては、園での集団保育に支障のないサイズ感や素材などをお示しした上で、その範囲内であれば、既製品を使用いただいている方もいらっしゃいます。 公立保育園での紙おむつの廃棄やサブスクサービスにつきましても、令和5年度から導入させていただいております。
5	R 4	26	母親のケア	子どものケアより疲れたお母さんのケアをしてほしい。	1歳未満の母子を対象に産後ケア事業があります。お子さんと一緒に助産師がいる施設に日帰りや宿泊をして授乳や育児の方法の指導、お母さんの身体的ケアなど必要な支援をします。産前産後ヘルパーや一時保育などの他の支援サービスについても一緒に考えてお母さんのサポートに努めます。
6	R 4	21	ヘルパーの登録	赤ちゃん訪問の時にヘルパーの登録ができると嬉しい。（とてもいい制度で登録したかったが、登録で市役所まで行かなくてはいけないと言われ、行くまでが大変なのと思った。）	令和6年度から電子申請による登録が可能となりましたので、来庁していただく必要がなくなります。

連番	意見聴取年度	ワークショップ の共感数	大項目	参加者の声（要望・意見）	解決策・代替え案など進捗状況
7	R 4	71	遊び場の拡充	室内遊び場が岡崎は少なく必要性を感じる。梅雨や台風、猛暑の影響もあり、一層必要性を感じている。	天候や気候に左右されない乳幼児の遊び場として、総合子育て支援センター、市内 5 か所の地域交流センター内にある「つどいの広場」、保育園の園庭や保育室の一部を開放する「地区子育て支援センター」「子育て広場」20か所、岡崎げんき館の子ども育成ゾーン、岡崎市額田センター（こもれびかん）があります。各学区こどもの家では、小学生が利用していない時間帯にご利用いただくことができます。 また、南公園では、屋内遊戯施設（運営は民間事業であり有料）や大屋根付き多目的広場の設置を含む再整備の事業者を公募型プロポーザルにて決定しました。令和6年4月から3年公園を閉園して整備を行い、令和9年4月からのリニューアルオープンを目指します。
8	R 4	51	遊び場の拡充	雨の日でも遊べる場所が欲しい。	休日等に家族全員で楽しむことができ、地域の子どもが集まる居場所として、東西南北・中央にバランスよく屋根付き広場を整備することが望ましいと考えますが、先行地域（項目 7）の状況も踏まえ、庁内でしっかりと議論し設置時期等を検討していきます。
9	R 4	25	公園の遊具	大きい公園以外には、ボロボロの遊具しかなくて、楽しそうな遊具のある公園まで車で行かなくてはならない。	施設点検において安全性が危惧されるものや、設置後の年月が経過しているものから、毎年予算の範囲内で公園の利用実態を確認した上で地元と協議し順次更新を実施しています。 また、施設整備以外にも公園愛護運営会（公園育み隊）等を中心に日常的に利用されている身近な公園を地域住民の庭と捉え、清掃活動や緑化活動、健康づくりなどの地域イベントに子どもから高齢者まで参画いただくソフト側の取組みを実践されている地域もあります。身近な公園を魅力的な居場所とするため、利用者の皆様が積極的に関わっていただけるような取組みにも努めたいと考えます。
10	R 4	23	男性の育児休業等	男性も育休をとったほうがいいと思う。一番支えて欲しい時に支えてもらえると感謝が産まれて、その先もずっと仲良くいられると思う。	育児休業をはじめとした男性の家事・育児参画に対する必要性や重要性を啓発し、市民全体の気運を醸成するため、子育て家庭向けに「おかざきパパマイスター養成講座」を全 4 回開催しています。また、講座受講生のコミュニティー作りを通して、パパ友同士で情報交換できる環境を整備しており、1 人でも多く笑顔で子育てするパパを誕生させることで、家庭内の環境改善に取り組んでいます。令和 6 年度は新たに、パパ同士の交流が一層深まる環境を整備するため、市内公園にパパと子どもが集まってパパ同士の交流を図る「PAPATOパークおかざき」を開催します。その他、企業における子育て家庭従業員の雇用環境整備を推進することを目的として、企業担当者向けセミナーも開催しており、個人・企業の双方向から男性の家事・育児参画を推進しています。さらに、男性に育児休業取得を促すため、本市独自の父子手帳「パパって最高！～岡崎市版父子手帳～」を作成し、母子健康手帳交付時に配布することで、1 人でも多くの男性が自分自身と家族にとって有意義な育児休業を取得できるよう取り組んでいます。
11	R 4	136	本イベントの来年度開催	令和 5 年度も本イベントを開催してほしい。	本市の子育て環境を一層改善するため、引き続き本イベントを開催します。イベントでは、子育て世帯の悩みや要望を拾い上げるワークショップをはじめ、子どもも楽しめるブースや子育ての手助けとなるブース、パパが活躍できるブースなどを出展し、市民参加型の子育てイベントとして開催することで、本市の子育て環境の改善に取り組んでまいります。
12	R 5	58	男性の労働時間（残業）の見直し	・母親と同じレベルで仕事をセーブすることが難しいため、男性は家事育児がやりにくい。 ・（家事育児は）フルタイム（残業も常態化）との両立が難しい。 ・子どものいる家庭の男性の残業が減ってほしい。 など	企業における子育て家庭従業員の雇用環境整備を推進することを目的として、令和 4 年度から企業担当者向けセミナーを開催しています。セミナーに企業の上層部や人事参加者が参加し、男性の家事・育児参画やワーク・ライフ・バランスなどについて理解を深めることで、従業員の労働時間をはじめとした雇用環境を見直す機会を創出しています。1 社でも多くの企業に参加していただけるよう、企業や商工会議所と連携して広報をしていきます。

連番	意見聴取年度	ワークショップ の共感数	大項目	参加者の声（要望・意見）	解決策・代替え案など進捗状況
13	R 5	48	夫が妻を思いやる 気持ち	・父親は、母親が家事育児をやっているなら手を出さなくていいだろうと思っている。 ・家事育児は調べる手段はいくらでもある。夫は積極的に行動し、産後の体やメンタルがボロボロの妻を支えてあげるという思いやりが必要。 など	男性の家事・育児参画に対する必要性や重要性を啓発するセミナー「おかざきパパマイスター養成講座（全４回）」では、各回ごとに様々な分野の専門家を講師として招いています。夫婦で共に思いやりながら妊娠期・育児期を過ごすコツなどについてもお伝えしています。また、本市独自の父子手帳「パパって最高！～岡崎市版父子手帳～」でも、「産前産後の女性の心と身体について」や「夫婦でのコミュニケーションのコツ」、「育児休業制度」など、知っていそうで実は詳しく知らなかった内容について掲載することで、互いに思いやる気持ちが持てるように促しています。
14	R 5	42	男性の育児休業や 休暇に対する企業 の理解	・より多くの男性が家事育児に関わるためには、男性が育休を取得しやすい環境作りが必要。 ・子どもの熱や不調による男性社員の早引き、突発休みへの職場の理解がない。 など	企業における子育て家庭従業員の雇用環境整備を推進することを目的として、令和４年度から企業担当者向けセミナーを開催しています。セミナーに企業の上層部や人事担当者が参加し、男性の家事・育児参画やワーク・ライフ・バランスなどについて理解を深めることで、従業員（男性）の育児休業をはじめとした雇用環境を見直す機会を創出しています。１社でも多くの企業に参加していただけるよう、地元企業や商工会議所と連携して広報をしていきます。
15	R 5	32	夫婦でコミュニ ケーションを取る 必要性	・夫婦で話をすることが大事。 ・（男性の意見として）家事育児は妻のやり方でやらないともめる。 ・子育てに男女差はないが、家事は女性のこだわりが多く、やっても感謝より否定の言葉が多くやる気にならない。 など	男性の家事・育児参画に対する必要性や重要性を啓発するセミナー「おかざきパパマイスター養成講座（全４回）」では、各回ごとに様々な分野の専門家を講師として招いています。夫婦間のコミュニケーションを大切にしながら妊娠期・育児期を過ごすコツなどについてもお伝えしています。また、本市独自の父子手帳「パパって最高！～岡崎市版父子手帳～」でも、「夫婦でのコミュニケーションのコツ」について掲載しています。
16	R 5	24	男性トイレのオム ツ替え台等の設置	・公共施設のトイレなどで、女子用にしかベビーベッド（オムツを替える台）がついていない事例が頻発している。 ・男性がオムツ替えやミルクをあげる為の施設（空間）を設置する為の助成等援助をする。 など	既存の公共施設において、男性がオムツ替えができる場所を新たに設置する予定は、現状ではございません。また、民間施設への補助等も予定はしておりません。しかしながら、男性が主体的に育児を行う上で、男性トイレ等にオムツ替え台があることが望ましいことを踏まえ、新設や改修する公共施設において設置するよう検討してまいります。